

かわさき区の宝物シート

宝物No.	まんねんあと 万年跡
1-3	

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



出典:「江戸名所図会」

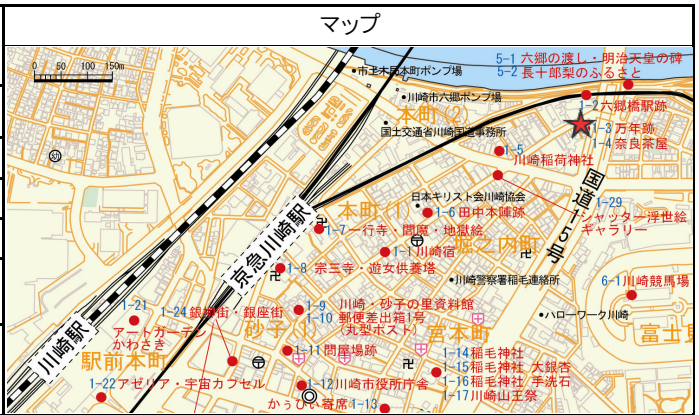


川崎宿模型(砂子の里資料館蔵)



出典:「2001大川崎宿祭り記念誌」

所在地	川崎区本町2-11
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/home/papercraft/index.html (川崎区役所HP/かわさきの宝物・ペーパークラフト)
交通	JR川崎駅よりバス「本町」下車徒歩2分



基礎情報

- 江戸時代に「奈良茶飯」が評判を呼び、宿場一の茶屋となった万年屋の跡地。多摩川を渡って川崎宿に入っすぐの江戸口(下手土居)にあったという。「江戸名所図会」にも紹介された。現在、旧街道沿いには旅籠・万年(屋)の説明板がある。
- 平成13年(2001)5月に開催された宿駅制定四百年記念「大川崎宿祭り」では、宗三寺入口に万年屋が再現され、宮前区在住の料理研究家西本薫子さんが「東海道中膝栗毛」などを基に再現した奈良茶飯が販売された。

由来・エピソード

- 明和年間(1764~72)、一膳飯屋だった万年屋は、奈良茶飯の人気で、宿場一の茶屋となり、宿泊もまかなうようになった。江戸時代後期には大名も屋時に立ち寄るほどで、やがて本陣をものぐようになった。
- 万年屋があった付近には会津屋や新田屋など大きな茶屋がほかにもあった。厄除けで有名な川崎大師へ向かう多くの参拝者たちが、その行き帰りに立ち寄ったためである。また、万年屋近くには「従是弘法大師江之道」の道標が立ち、東海道から大師道への分岐点となっていた。ここから医王寺までの大師道は「万年横丁」とも呼ばれた。
- 安政4年(1857)のこと、アメリカ駐日総領事ハリスが江戸へ向かう途中、川崎宿・田中本陣に泊まる予定であったが、本陣のあまりの荒廃ぶりを見て万年屋に宿を変更したという。また、明治10年(1877)療養に向かう皇女・和宮が万年屋で一泊した際、愛らしい赤子とふれあい、すっかり明るく元気を取り戻し川崎宿を後にした。ところが和宮は翌月帰らぬ人となる。帰宅する霊柩が再び万年で休車すると、和宮が箱根到着後さっそく赤子への土産にと買いととのえた箱根細工の玩具が、女官の手によってかの赤子、万年屋の主人半七の孫娘・ハルに手渡されたという。

補足・その他

--

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-4)奈良茶飯
(5-1)六郷の渡し・明治天皇の碑
(10-17)川崎大師平間寺